

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	近畿大学 (大阪公立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学) 計5大学
事 業 名	阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン
事 業 責 任 者	近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 教授 林 秀敏
事 業 の 概 要	
<p>第1～3期がんプロで育成された人材が事業の中心を担い、5大学9学部が連携してがん治療・予防の進歩に対応出来る人材を養成する仕組みの確立を目的とする。ニーズを基にタスクフォース(TF)を形成し、事務局が統括する。「TF1:医療現場」では緩和ケア医や病理医、放射線治療医の育成に加え、大学間連携の免疫関連有害事象 Board meeting を通じて腫瘍循環器/腎臓病医等にも実践的な診療経験の場を提供する。「TF2:予防医療」では遺伝カウンセラー育成に加え、がんサバイバーシップ支援ができる専門看護師育成、近大情報学部との連携によるバイオインフォマティクスの育成や、大阪公立大学保有の1万例の健診データを利用した先制医療を担う人材養成を行う。「TF3:研究開発」では臨床研究中核病院である神戸大学を中心に、個別化医療に繋がる研究開発の基盤となる医師・CRC等に加え、免疫療法等、高度ながん医療研究開発を主導する医療者の育成システムを構築する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○:優れた点等、●:改善を要する点等	
<p>○サステナブルな人材育成を掲げて、バランスの取れた内容のプログラム構成となっており、プログラム開設数も多い点は評価できる。</p> <p>○特にニーズの高い分子病理診断、核医学などのプログラムは魅力的であり、評価できる。</p> <p>○大阪公立大での予防や未病段階での介入の取組は興味深く、期待したい。</p> <p>○大学間の免疫関連有害事象 Board Meeting は他にない試みで評価できる。</p> <p>○がんサバイバーを支援できる専門看護師と遺伝カウンセラーの育成・実績は高く評価できる。前期プログラムでの遺伝カウンセラー60名の輩出は高く評価できる。</p> <p>○粒子線の施設が複数含まれ、医学物理士養成については十分な実績があることも高く評価できる。</p> <p>○がん予防の取組に関しては、多職種ならびに多分野における専門職者の養成を発展的に計画しており、未来を見据えたがん医療への貢献が期待できる。</p> <p>○網羅的ビッグデータを集積したバイオバンクと連携したバイオインフォマティクスの専門家養成コース設置は他に類を見ない試みである。</p> <p>○大阪公立大学において医療ビッグデータ専門医、近畿大学においてデータ解析専門家などのコース設置が計画されており、教育体制の発展が期待できる。</p> <p>○全体の受入目標人数247名は非常に多く、成果が期待される。</p> <p>○分野別専門医、がん看護専門看護師など、コース修了後の専門制度までの具体的な目標が明確に挙げられている。</p> <p>○学長または医学部長をメンバーとするプロジェクト統括会議を最高意思決定機関とすることが明示されている。</p> <p>○大学を横断した cancer board の運用が計画されており、有機的な大学間、地域間の連携が期待できる。</p> <p>○「近畿がん診療推進ネットワーク」から持続的支援を受けられるとの記述がある。</p> <p>●新たな医療開発の人材育成に関して、臨床開発に関する人材育成実績は素晴らしいが、一方で創薬</p>	

などの基礎研究からのシーズ開発がやや不足している点が改善されることが望ましい。

- 日本内外の施設への波及についての記述に乏しい。
- 「TF1 医療現場」における専門職の養成に関しては、医師が主であり、集学的がん治療や多職種連携・チーム医療を基盤とした取組という点で若干課題がある。
- 学外との連携で免疫療法 cancer board の取組が示され、興味深い内容であるが、各大学によって異なるプログラムが計画されており、このような個別のカンファレンスをどのように活かしていくのかやや不明瞭である。
- 成果の普及に関して SNS 等を用いての普及や学会ガイドライン等を通じた普及など具体的な計画があるとより魅力的ではないか。
- 事業の継続に関して、各大学の自助努力とされているが、具体的にどのような取組を計画されるのかよく検討されることが望ましい。
- バイオバンク構築や検診データ集積とそのビッグデータ解析に関して、どのような視点で人材育成を進めるのか、より具体的な内容があると魅力的になるのではないかと期待される。
- 新しい治療開発人材に関しても橋渡し研究に関連する研究実施者や支援者などの人材育成が進むことも期待したい。
- 外科医養成コースが複数あり、集学的治療の担い手であるとしているが、今回のがんプロのテーマとの関連性を明確にする必要がある。